平成２８年度　報告
指宿市立魚見小学校

ＮＩＥ実践報告

1　研究テーマ

課題解決に向けて自分の考えを表現できる子どもの育成を目指して
～資料活用能力の向上を図る取組を中心に～

本校は，ＮＩＥ実践校として，４年目となる。５月から全国紙，地方紙の３社の新聞購読を行っている。また，実践校として初年度，学力向上における地区研究指定を受け，上記テーマにて研究公開を実施した。新聞を資料として位置付け，これまでの新聞活用の方法を整理し，新しい活用方法を模索するよう全ての学級で実践に取り組んでいる。

2　実践内容　　○…成果　△…課題

(1) 第１学年の取組

ア　新聞の紹介

１年生は，新聞を読んだことのない子どもは勿論，よく見たことのない子どもがほとんどであるため，何が掲載されているのか，新聞を手にとって見させた。

子どもたちは，「家にもあった」「字がいっぱいある」「読めない(漢字)」「紙が何枚か重なってる」「大きい(紙のサイズ)」「写真がある」「テレビで見た人が載っている」「絵が描いてある」「マンガがある」という反応であった。１年生の段階では，内容読解は到底できることではないが，今後，新聞活用をしていく上で，まず，新聞の存在を知らせることを行った。

また，担任が，旬な話題の新聞記事を拡大提示して，子とどもたちに紹介し，新聞をより身近なものとして感じさせるようにした。

○　朝の会などで，担任が新聞記事を抜粋して拡大提示し，そのときの旬な話題を子どもたちに知らせることができた。紹介する中で，テレビなどで話題になったものや身近なものなどの記事(主に写真)が紹介されると，より興味を持って聞くことができた。新聞掲載の写真を見せることで，話の内容を理解しやすくし，子どもによっては，他メディア(テレビ)からの情報や，これまでの自身の経験を想起させ，結び付けて聞くことができた。また，普段の子どもたちの会話では出てこない社会的な話題も新聞記事を提示することで，友だち同士で話をすることがあり，社会の出来事に目を向けさせることができた。例えば，オリンピックの記事を提示すると「あっ，この人知ってる」「金メダルだったよね」と写真をもとに子どもたち同士で話をしていた。

○　『南日本新聞』の「うぶごえ」欄に児童の妹の名前が掲載されていたことから，新聞には，世界で話題になっているオリンピックのことや友だちの妹のこと，幅広く掲載されていることを子どもたちが知ることができた。

(2) 第２学年の取組

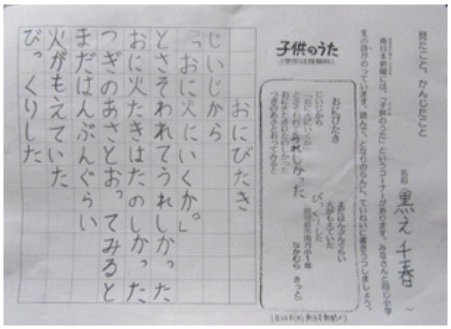
ア　そのときの気持ちをどんな言葉で表せばいいかな

日記や作文等の文章を書くときに，そのときの気持ちを表す言葉が少なく，特に日記では「楽しかったです」で終わってしまうことが多い。そのときに思ったり感じたりしたことを言葉で表す大切さや表し方を新聞の活用によって学べないかと考えた。

国語の「見たこと、かんじたこと」の学習で詩をつくる活動を行った。南日本新聞の『子供のうた』欄には、児童と同じくらいの年齢の友達の詩が掲載されており、親しみをもちながら新聞で学ぶことができると考え、活用することにした。

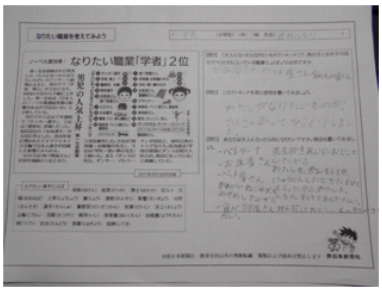
活用の仕方は，視写をしたり，気持ちを表す言葉を当てたりする活動である。子供のうたは，担任が選び，気持ちを表す言葉を隠した詩と視写をするスペースを取り入れたワークシ

ートを作成した。
　活動では，まず空欄になっている気持ちを表す言葉は何かクイズをした。答えを出しながら詩の内容を確認した。その後，視写を丁寧に行った。終わった児童には、感想を書かせた。



○　言葉当てクイズにしたことで，児童が興味をもって取り組むことができた。答えを出す過程で様々な表現の仕方に気づくことができた。
○　視写をする中で，かぎ「」の使い方を確認することができた。「」で改行することやますのどこに書くのか間違えている児童がいたので，よい機会となった。
△　担任が選んだ詩だけでなく，自分で好きな詩を選ぶ活動に広げていくことで，新聞を手にする機会はさらに増え，いろいろな記事に気づくことができると考える。

(3) 第３学年の取組
ア　グラフなどの資料を用いた新聞記事を読み取り，感想を書こう。
［総合的な学習の時間］



　グラフや資料を読み取って問題解決を行ったり,資料に対する自分の考えを発表したりする活動が多く設けられている。グラフなどの資料を読み取り，考えをまとめる力を育成する機会になるような新聞の活用方法はないかと考えた。そこで，新聞記事に対する感想を書く活動などを行った。
　１つ目は，それぞれで選んだ新聞記事に対する感想を書く活動である。2016 年に掲載された新聞記事を１つ選び，感想を書いた。児童それぞれが興味を持った新聞記事であったため，知識や興味を深めたり，広げたりしながら，自分の考えをまとめることができた。知識や興味を広げることができたため，関連する記事を読んだり，気になることを本で調べたりする児童も見られた。
　２つ目は，資料を読み取り，感想を書く活動である。児童と同じくらいの年齢の子どもたちのアンケートをもとにした記事を取り上げたワークシート集（南日本新聞社のサイト『373news.com』の中の『みなみエデュ』に掲載されているもの）を活用した。男女別の「大人になったらなりたいものランキング」に関する記事だったため，男女に共通する人気の職業を見つけるなど，資料を読み取ったり，自分の将来なりたいものを自由に文章で表現したりすることができた。

○　自分で選んだ記事に対する感想を書くことで，知識や興味を広げることができた。
○　児童と同じくらいの年齢の子どもたちに関する記事を取りあげたことで，興味を持って取り組むことができた。また，自分の意識と周りの子どもたちとの意識を比較しやすく，考えをまとめたり，表現したりすることができた。
△　今回扱っていた記事が子ども向けの新聞ではなかったため，読むことが難しく，内容を読み取るまでに時間がかかっていた。よって，新聞に対しての苦手意識をもっている児童も見られた。児童が読みすい記事や考えやすい記事の取り入れ方を考えていきたい。

(4) 第４学年の取組
ア　国語科「新聞を作ろう」（６月）
・　新聞がどのように構成されているかを学ぶ（新聞の特徴を確かめる）
・　取材をして，記事を書く
　（アンケート調査のしかたや記事につける写真や図の用い方を学ぶ）

○　どんな新聞を作るかをグループで話し合い，インタビューをしたりアンケート調査をしたりしながら，楽しんで記事にまとめることができた。
△　インタビューや自分の考えだけに頼りがちになるので，資料を集める方法をできるだけ多く紹介しておく。

イ　「夏休み新聞」「冬休み新聞」の作成（７～８月，１２～１月）
・　夏休み・冬休みの出来事や思い出，調べたことなどを新聞形式でまとめる
・　写真や絵などを積極的に取り入れ，読む人が読みたくなるような新聞にする

○　自分の思い出だけでなく，夏や冬の行事について調べたり季節を感じられる内容にしたりするなど，工夫が見られた。
△　見出しの書き方や割り付けのしかたなどに個人差があるので，何を伝えたいか相手を意識しながら作成させることが必要である。

ウ　新聞記事をもとにした感想文の作成（７～８月，１０月）
・　「南日本新聞」から，気になる記事を選び，親子で感想を話し合って書く
・　「南日本新聞」未購読の家庭には，学校の新聞を提供した

○　これまでにも取り組んだ経験があるため，親子で意見や感想を話し合うよい機会となっている。
○　友だちの家庭が選んだ記事や感想に，興味を持って読んだり友だちに詳しく尋ねたりする姿が見られた。
△　保護者の協力が必要なので，実践が長期休業中などに限られてくる。

エ　国語科「アップとルーズで伝える」「クラブリーフレットを作ろう」（１１月）
・　焦点を絞る「アップ」と全体を捉える「ルーズ」の表現方法を学ぶ。
・　新聞に掲載されてる写真が「アップ」と「ルーズ」のどちらに当てはまるのかを考えさせ，記事との相乗効果を理解させる。
・　「クラブリーフレットづくり」では，記事に合った効果的な写真を添えることができるように，文章を構成させてから写真を撮影した。

○　「アップ」「ルーズ」の写真が持つ効果を，新聞を読んだりリーフレットをつくったりすることを通して実感することができた。
△　「ルーズ」の写真だけの記事では，子どもたちにとって難解な語句が多く，文章の内容を大まかにでも理解することができない。

オ　お気に入りの記事を３分で視写
・　一日分の「朝日小学生新聞」「毎日小学生新聞」「南日本新聞　若い目」の中から，自分が興味を持った記事を選ぶ。（文章になっているもの）
・　３分間で視写する。（見出しを題名とする・目標は２００字・難しい漢字は平仮名に直してもよい・字の間違いや句読点の抜けなどは問わない）
・　視写の後，なぜその記事に興味を持ったか，記事を読んでどんなことを考えたかなどを書く。

○　自分の趣味や興味のある記事や読んで新たな発見を得た記事を選ぶことができるので，意欲的に新聞を読むことができた。
○　短い時間で集中して書き写すことができるようになった。また，自分の言葉で感想が書けるようになった。
△　小学生向けの新聞以外は難しい漢字が多いので，記事を読む段階からとっつきにくさを感じる子どもが多い。

(5) 第５学年の取組
ア　国語「新聞の読み方を考えよう」（５月）
　同じ出来事でも新聞によって，記事の内容が異なることに気付かせ，新聞記事の構成等の工夫について話し合わせ，興味のある新聞記事を互いに紹介し合う。

○　同じ出来事でも新聞によって，記事の書かれ方が異なることについて気付かせることができた。また，興味のある記事について，互いに紹介し合うことができた。さらに，記事に対する自分なりの思いや考えももたせることができた。
△　記事の構成の工夫について，考えさせることがあまりできなかった。改善策としては，記事の比較をもっとさせることで，記事の工夫や特徴を考えさせることができるのではないか。

イ　読売ワークシート通信（１・２学期）
　読売新聞のホームページから，記事を使ったワークシート形式のものをダウンロードし，課題として取り組ませる。

○　社会の出来事について，興味をもたせたり，話題にしたりすることができた。また，記事に対する自分なりの思いや考えをある程度もたせることができた。
△　記事によっては，思いや考えをもたせることがあまりできなかった。そのため，児童が興味をもてるような記事（ワークシート）を選ぶようにする必要がある。

(6) 第６学年の取組
ア　新聞を書こう
　社会科や総合的な学習の時間等で，新聞形式でまとめる活動を積極的に取り入れるようにした。学習したことや調べたことを分かりやすく伝えるための文章を考えたり，写真や絵を使って見やすい記事を意識したりすることで，学習したことがより深まった。
イ　新聞を読んで考えよう
　６年生は，元気があり男女の仲もよいが，仲がよいが故に何でも言葉にしてよい雰囲気がある。友達が傷つくような言葉を使い思いやりに欠ける場面があるので，命の大切さや思いやり，一生懸命生きることについて書かれている記事を選び，道徳や学級活動の時間に記事を読み，考えたことを話し合う時間を取り入れた。
　担任の思いを押しつけるような指導にならないように心がけ,子どもたちの素直な思いを書かせ,それをもと話し合った。友達の感じていることを共有でき，命の大切さや思いやり，生きていることのありがたさを感じ表現できる子どもが増えてきたような気がする。
ウ学習したことと新聞をつなげて考えてみよう
　南日本新聞の「みなみEdu」のHPにある，新聞活用シートを利用し，ワークシートを用いて学習したことを深めることができた。例えば，社会科「縄文のくにから古墳のくにへ」の学習に関連して，身近な場所でも出土品が出たという記事の読み取りを行うことができた。

○　よむのびコンクールへの取組を続けたり，新聞を目にする機会が増えたりしていることもあり，以前より新聞を身近に感じ，新聞を作ることに抵抗を感じる子どもが少なくなっている。
○　様々な人の考えや生き方に触れるよい機会となり,自分の生活と結びつけて考えることができた。
△　新聞を用いた学習活動のよさは感じているが,その活用方法を研修したり,授業時間内で有効に利用する時間をつくったりすることがとても難しい。

３　成果と課題
(1) 成果
○　新しい情報，タイムリーな情報を得ることができ，社会科の資料としての活用をはじめ，４年生は県内，５年生は国内，６年生は世界各国，政治や歴史と視野をより広げることができた。
○　教科書の記述と実際をつなぐツールのひとつとなった。
○　語彙や表現技法の習得につながった。
○　児童の身近に新聞のある環境作りや様々な機会を捉えた意図的活用を行ったことで，新聞を身近なものに感じられるようになってきた。
○　情報収集において,インターネットの情報の速さやテレビの映像・音声によるわかりやすさなど,それぞれ利点はあるが，新聞については，新しい情報が定期的に手元に届くことで，それを目にする機会も多く，第三者に伝える際にも活用しやすかった。
○　よむのびコンクール学級賞(３・５年生を除く)を受賞，記事収集の協力，新聞記事の話題で語る等，学校全体で積極的な新聞活用に取り組む姿勢が見られてよかった。

(2) 課題
△　内容読解が難しいため，教師，児童ともに記事を選択する力を付ける必要がある。下学年は慣れ親しませる活動を取り入れ，上学年は，活用，作成(表現)の活動を中心に継続した指導を行う。
△　全ての学年で新聞を活用した取組を行った。新聞活用については，教師が主体となって児童に新聞を読ませることが多かった。児童が自ら新聞を手に取りたくなるような手立てを取る必要がある。
△　学校に一部しか届かない新聞を全校でどのように活用するか工夫が必要である。
△　記事の扱いについては，偏った見方にならないようにするため，複数の新聞を読み比べ，様々な考え方の一つとして慎重に取り扱う必要がある。また，記事に関係する児童がいる際には，取り扱いに注意が必要である。